

とやま民俗

No 103

令和7年1月

能登半島地震と文化財

— 氷見市における文化財レスキュー —

の取り組みについて—

ひろ せ なお き
廣 瀬 直 樹

はじめに

令和六年一月一日に発生した令和六年能登半島地震では、能登半島の基部東側に位置する富山県氷見市も大きな被害を受けた。地震に伴う液状化などもあり、市中央部の北大町・栄町と市北部の姿地区の被害が特に甚大であったが、家屋や道路、農業関連施設、寺社の石造物等の損壊、断水など、地震の影響は市の広い範囲に及んだ。

筆者が勤務する氷見市立博物館も例外ではなく、大小さまざまな被害が発生した。また、氷見市立博物館は氷見市の文化財保護行政も担っているため、市内の指定文化財等の被害状況の把握についても、博物館の復旧業務と並行して行わなければならないかった。そしてその状況のなかで地震発生直後より博物館が主体となって実施してきたのが、

能登半島地震と文化財

次	1
— 氷見市における文化財レスキューの取り組みについて —	廣瀬直樹
柿洪拾遺	7
砺波地方の民家の住まい方	稗田美穂子
— 各部屋の格式意識を支えた心を考える —	安力川恵子
民俗の窓	18

いわゆる文化財レスキューである。

本稿では、令和六年能登半島地震における氷見市の文化財被害状況とともに、氷見市における文化財レスキューの取り組みについて、この場を借りて報告したい。

氷見市立博物館の被害状況

地震発生の翌日二日、館員一同が博物館に参集し、館内の被害状況の把握を行った。常設展示室では館内に移設された茅葺民家の屋根材の落下のほか、展示資料の転倒等が生じ、それに伴いガラス製ランプや磁器製徳利、素焼きの焙烙等の破損が確認された。一方、収蔵庫については資料の落下等はほとんど生じていなかった。だが、棚の高所にあったパソコンのモニターが落下し、資料貸し出しのため平置きしてあった遺物コンテナに直撃、珠洲焼の破片が粉碎されるという被害が発生した。また揺れによって、接合し、石膏で復元してあった土器類の接合部破断も確認された。

館内では、本棚の転倒と書籍類の落下も確認された。館長室の壁にネジ止めされていた本棚も倒れ込んでおり、地震の大きさを物語っていた。書籍類については大きな破損はなかったが、本棚で保管していた図録など各種刊行物の在庫分では、売り物にならない状態になったものも多数あり、処分せざるをえなかった。

富山民俗の会

〒930-0881

富山市安養坊五六甲の一
富山市民俗資料館内

・会費年額 四、〇〇〇円
・郵便振替口座 00740-5-12787

印刷／株式会社エッ